

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 特 許 公 報 (B 2)

(11)特許番号

特許第3173051号

(P3173051)

(45)発行日 平成13年6月4日(2001.6.4)

(24)登録日 平成13年3月30日(2001.3.30)

(51)Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	
G 0 1 W 1/10		G 0 1 W 1/10	M
			U
	1/02	1/02	A
			C

請求項の数1(全12頁)

(21)出願番号	特願平3-219865	(73)特許権者	000001443 カシオ計算機株式会社 東京都渋谷区本町1丁目6番2号
(22)出願日	平成3年8月30日(1991.8.30)	(72)発明者	岩丸 利房 東京都西多摩郡羽村町栄町3丁目2番1号 カシオ計算機株式会社羽村技術センター内
(65)公開番号	特開平5-60879	(74)代理人	100074099 弁理士 大菅 義之
(43)公開日	平成5年3月12日(1993.3.12)	審査官	野村 伸雄
審査請求日	平成10年8月20日(1998.8.20)	(56)参考文献	特開 昭57-173777 (J P , A) 特開 昭56-47775 (J P , A) 特開 平2-292665 (J P , A) 特開 平4-315986 (J P , A) 実開 平3-101487 (J P , U)

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 天気予報装置

1

(57)【特許請求の範囲】

【請求項1】 所定時間毎に気圧を測定して気圧データを得る気圧測定手段と、
該気圧測定手段にて測定された気圧データに基づいて天気予報データを得る天気予報データ算出手段と、
この天気予報データ算出手段で得られた天気予報データを表示させる天気予報データ表示制御手段と、
過去の天気から求めた天気確率データを日付毎に記憶する天気確率データ記憶手段と、
この天気確率データ記憶手段に記憶されている天気データのうち当日を含む連続する所定日数の日の天気確率データを読み出して同時に表示させる天気確率データ表示制御手段と、
前記天気予報データ算出手段にて算出された天気予報データと、 当該天気予報データが算出された日付と同一

2

日付の前記天気確率データ記憶手段に記憶されている天気確率データとの違いを判別する判別手段と、
該判別手段にて判別された違いに応じた報知を行う報知手段と、
を具備したことを特徴とする天気予報装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の技術分野】本発明は、天気予報を、その予報の信頼度と共に表示する天気予報装置に関する。

【0002】

【従来の技術】近年、レジャーを楽しむ時間が多くなってきているが、そのようなとき外に出掛けた際、当日先着きの天気具合を予め予測できれば便利であることが多い。テレビ等で行われる、日に1、2回程度の天気予報では便利であるとはいえず、このような場合、任意の時

刻に当日の先行きの天気を知ることができるものとして、従来、時計等に組み込まれた天気予報装置が知られている。この天気予報装置は、時間と共に日付も表示するようになっており、気圧センサによって当日の気圧を測定してその日の天気を予想表示する。そして、さらに、一年間の日付毎に、過去20年間の降雨データから算出した平均値による降雨確率データを記憶して、その記憶された降雨確率データに基づいて、上記天気が予想表示された当日の降雨確率データもグラフ化して合わせて表示するようになっている。

【0003】

【従来技術の問題点】しかしながら、上記天気予報装置は、例えば、測定した気圧による天気予報では天気は「晴」と表示されているのに、記憶されている統計による降雨確率データによる当日の降雨確率予測では降雨率「60%以上」と表示するというような欠点があった。そして、このように、二つの天気予報が異なったまま表示されたのでは、使用する者にとっては、どちらの表示に従ってこれからの天気を予想してよいものか判断に迷ってしまうという問題があった。

【0004】

【発明の目的】本発明は、測定による天気予報と統計による天気確率（降雨確率）とが異なっている場合でも使用者が判断に迷うことのない天気予報の表示ができる天気予報装置を提供することにある。

【0005】

【発明の要点】本発明は、上記目的を達成するために、測定された気圧による天気予報データと、過去の統計による天気確率（降雨確率）データとを表示する際、天気予報データと天気確率（降雨確率）データとの違いを自動的に判別し、その判別した違いの程度に応じて、上記表示される天気予報データの信頼度を決定してその信頼度も合わせて表示するようになると共に、当日を含む連続する所定日数の日の過去の天気確率データを読み出して同時に表示するようにしたことを要点とする。

【0006】

【実施例】以下、本発明の実施例について、図面を参照しながら説明する。図1は、本発明の一実施例に係る天気予報装置の内部回路を示すブロック図である。同図において、CPU1は、マイクロプロセッサ等から成り、特に図示しない内蔵のROMに格納されているマイクロプログラムにしたがってシステム全体をコントロールする。

【0007】発信部2は、一定周期のクロック信号を生成して分周回路3に出力する。分周回路3は、発信部2から入力するクロック信号を所定周期で分周して時刻信号を生成し、その時刻信号を時刻計数回路4に出力する。

【0008】時刻計数回路4は、分周回路3から入力する時刻信号を計数して、現在時刻データをCPU1に出

力し、また現在時刻が24時になると計数「0」となって日キャリア信号を日付計数回路5に出力する。

【0009】日付計数回路5は、時刻計数回路4から入力する日キャリア信号により日付データを更新し、その更新された現在日付データをCPU1に出力する。また、時刻計数回路4は現在時刻が0時、1時、2時、3時・・・の正時になる毎に時キャリア信号をCPU1に出力する。CPU1は、時刻計数回路4から入力する時キャリア信号に基づいて、起動信号を圧力センサ9およびA/D変換回路10に出力し、気圧を測定する。

【0010】RAM6は、ランダム・アクセス・メモリであり、詳しくは後述するが、測定気圧データ、天気予報データ、信頼度データ等を記憶する各種レジスタから成っている。

【0011】都市選択スイッチ部7は、特に図示しないが感圧式あるいは押釦型のスイッチを備えており、そのスイッチのキー入力によって後述するROM8に記憶されている都市を任意に順次選択することができる。

【0012】ROM8は、固定メモリであり、過去20年間の降雨データをもとに算出された1月1日から12月31日まで各日付毎の天気確率データを、例えば降雨確率が0～20%の場合は「0」、降雨確率が20～40%の場合は「1」、降雨確率が40～60%の場合は「2」、降雨確率が60～100%の場合は「3」として各都市毎に記憶しており、都市選択スイッチ部7のキー入力により選択された都市の日付毎の天気確率データをCPU1により読み出される。

【0013】圧力センサ9は、CPU1から正時毎に入力する起動信号により起動し、その時の気圧を測定してアナログ電気信号に変換し、そのアナログ電気信号をA/D変換回路11に出力する。

【0014】A/D変換回路10も、CPU1から正時毎に入力する起動信号により圧力センサ9と共に起動し、圧力センサ9から入力するアナログ電気信号をデジタル信号に変換してCPU1に出力する。

【0015】CPU1は、A/D変換回路10から入力する測定気圧のデジタル信号に基づき後述する演算を行って天気予報データを作成し、これを、ROM8から読み出した降雨確率データ、時刻計数回路4及び日付計数回路5から入力するデータにより作成した現在日時データ、及び後述する信頼度データと共に表示データを作成し、表示駆動回路11に出力する。

【0016】表示駆動回路11は、デコーダ、ドライバ等から成っており、CPU1から入力する表示データをデコードし、表示駆動信号を作成して、表示部12に出力する。

【0017】表示部12は、詳しくは後述する液晶表示装置を備えており、表示駆動回路11から入力する表示駆動信号に基づいて液晶表示体を点灯、点滅、又は消灯して所定の表示を行なう。

【0018】次に、図2(a)に、上記RAM7の主要な内部構成図を示す。同図において、レジスタPは測定気圧データを記憶するレジスタである。レジスタQは24時間の平均気圧データを記憶するレジスタである。

【0019】レジスタEは測定気圧と24時間の平均気圧との差データを記憶するレジスタである。レジスタXはレジスタEの値によって定まる後述する天気予報値を記憶するレジスタである。

【0020】レジスタYは予報の信頼度を記憶するレジスタである。また、RAM6には、特には図示しないが、レジスタN(0)～N(23)が設けられており、過去24時間の測定気圧を記憶する。

【0021】次に、図2(b)に、表示部12の詳細な表示電極の構成を示す。同図に示す表示部12は、中央より左方上部にそれぞれ太陽、雲及び雨を表す表示体を組み合わせてなる天気予報表示部21が設けられ、後述する演算により、例えば現在より8時間後の天気の状態を予想して、これも後述する図6の図形65に示す4種類の天気予報表示の内いずれか1つを表示する。例えば、「天気はよくなっていくでしょう」を表すときは、図8

【0022】天気予報表示部21の左方には、信頼度表示部25が設けられ、「信頼度」と印刷表示された下に、「大」、「中」、「小」の文字がそれぞれ四角で囲まれてなる表示体が配置され、例えば、予報の信頼度が低いときは図8に示すように四角で囲まれた「小」表示体を点灯する。

【0023】また、中央より左方下部には、4桁のセグメント表示体22と、その右から2桁目と3桁目のセグメント表示体の間にあるコロン表示体23とからなる時刻表示部24が設けられ、例えば、図8に示すように現在時刻「10時31分」を表示する。

【0024】また、中央より右方上部には、7列4行の印刷された枠、その枠内に配置された合計28個の確率表示体26、枠の左に印刷された降雨率を示す数字「100」、「60」、「40」、「20」、「0」とその下の「%」表示、並びに枠の下に配置された曜日表示体「月」、「火」、「水」、「木」、「金」、「土」および「日」からなる降雨確率表示部27が設けられ、例えば図8に示すように、本日の曜日表示体「日」を点滅表示し、本日から月曜まで一週間の降雨確率を示す確率表示体26をそれぞれ4、1、4、1、2、3、および2個点灯する。

【0025】その降雨確率表示部27の下方には、4桁のセグメント表示体28、そのセグメント表示体28の右から2桁目と3桁目の間に印刷された「月」表示、および右端に印刷された「日」表示からなる日付表示部29が設けられており、例えば図8に示すように、現在日付「12月23日」を表示する。

【0026】ここで、本実施例における天気予報表示部

21に表示する天気予報の予報アルゴリズムについて、図6を用いて説明する。まず、詳しくは後述するが、24時間の平均気圧Qが測定され、さらに現在の気圧Pが測定され、その差E(=P-Q)が算出される。

【0027】そして同図の横欄61に示すようにE>3mb(ミリバール)、すなわち現在の気圧が過去24時間の平均気圧よりも非常に高ければ、これから8時間後は晴れの良い天気になるだろうと予報する。そして、レジスタXに「0」を記憶させ、このときの予報図形の表示を「太陽」のみの表示とし、この予報状態を「晴」とする。

【0028】つぎに、3mb≥E≥0mb、すなわち現在の気圧が過去24時間の平均気圧よりやや高ければ、これから8時間後は天気よくなっていくだろうと予報する。そして、この場合はレジスタXに「1」を記憶させ、予報図形を「太陽半分と雲」で表示し、この予報状態を「晴曇」とする。

【0029】また、0mb>E≥-3mb、すなわち現在の気圧が過去24時間の平均気圧よりやや低いときは、これから天気はぐずついてくるだろうと予報する。そしてレジスタXには「2」を記憶させ、予報図形を「雲」のみとし、この予報状態を「雨曇」とする。

【0030】さらに、-3mb>E、すなわち現在の気圧が過去24時間の平均気圧に比べ極めて低いときは、雨又は雪の悪い天気になるだろうと予報する。そしてレジスタXには「3」を記憶させ、予報図形を「雲と雨」とし、この予報状態を「雨」とする。

【0031】次に、本実施例における天気予報の信頼度決定アルゴリズムについて、図7を用いて説明する。同図の天気予測欄71は、図6で説明した天気予報アルゴリズムで算出される4種類の天気予測の欄である。また降雨確率欄72は、ROM8に記憶されている当日の降雨確率データの欄である。そして、信頼度欄73は、天気予測欄71の天気予測と、降雨確率欄72の降雨確率データとの一致、不一致の度合いに対応して信頼度の「大」、「中」、又は「小」を示す欄である。例えば、「晴」の欄74に示すように、本日の天気予測が「晴」であって、本日の降雨確率データが0～20%であれば、「晴」予報の信頼度は高いとみて、予報の信頼度を「大」とする。その逆に、本日の天気予測が「晴」であるのに、本日の降雨確率データが60～100%であれば、「晴」予報の信頼度は低いとみて、予報の信頼度を「小」とする。そして、本日の天気予測が「晴」であるときに、本日の降雨確率データが20～40%、または40～60%であれば、「晴」予報の信頼度は高くも低くもないとみて、予報の信頼度を「中」とする。

【0032】また、「晴」以外の他の天気予報についても、上記同様に「晴曇」の欄75、「雨曇」の欄76、及び「雨」の欄77に示す対比に基づいて予報の信頼度を決定する。

【0033】次に、以上の構成において、CPU1の制御により行なわれる天気予報処理、その天気予報の信頼度決定処理、それら天気予報と予報信頼度の表示処理、その表示のための各入力データ記憶処理と、入力データに対応する計算処理の動作を、図3乃至図5に示すフローチャートを用いて説明する。

【0034】図3は、プログラム全体の流れを示すゼネラルフローチャートである。この処理は、特には図示しない電源がONとなることによりスタートする。また、都市選択スイッチ部7のこれも特には図示しないスイッチにより、現在地の都市が選択されているものとする。

【0035】同図において、CPU1は、まず、ステップS301において、時刻計数回路4から、時キャリア信号が出力されているか否か判別する。そして、時キャリア信号が出力されていれば、時刻が1時間更新されている。然してこの場合はステップS302に進み、圧力センサ9に起動信号を出力して気圧を測定させ、A/D変換回路10にも起動信号を出力して上記圧力センサ9が測定した気圧をデジタルデータに変換させ、そのデジタルデータに変換された気圧データをRAM6のレジスタPに格納する。次に、ステップS303に進み、詳しくは後述する図4に示す天気予報処理を行った後、ステップS304で、これも詳しく後述する図5に示す信頼度判別処理を行う。これにより、時刻が1時間経過する毎に、現在の気圧が測定され、その測定された気圧データに基づいて後述する天気予報処理が行われる。

【0036】次に、ステップS305で、時刻計数回路4から入力する時刻データに基づいて表示部12の時刻表示部22に、現在時刻の表示を行う。これにより、現在時刻が、例えば、図8に示すように、10時31分と表示される。

【0037】続いて、ステップS306で、RAM6のレジスタXから、上記ステップS303の天気予報処理で得られた予報データを読み出し、その読み出した予報データに基づいて、表示部12の天気予報表示部21に天気予報の表示を行う。これにより、例えば、図8に示すように、本日の天気予報（8時間後の天気傾向）が「晴曇」の図形で表示される。

【0038】次に、ステップS307で、日付計数回路5から入力する日付データに基づいて、表示部12の日付表示部29に、本日の日付を表示する。これにより、例えば、図8に示すように、本日の日付が12月23日と表示される。

【0039】続いて、ステップS308で、本日の日付データから曜日データを算出し、得られた曜日データに基づいて、表示部12に曜日表示を行う。これにより、例えば、図8に示すように、日曜日を示す本日の曜日「日」表示体が点滅表示される。

【0040】そして、ステップS309に進み、ROM8から、本日から一週間の降雨確率データを読み出し、

その読み出した確率データの基づいて、表示部12の降雨確率表示部27に、一週間の降雨確率データの表示を行う。これにより、例えば、図8に示すように、本日から一週間の降雨確率データが曜日毎に確率表示体26で点灯表示される。

【0041】上記ステップS309の処理が終了すれば、前記ステップS301に戻る。また、前記ステップS301で、時キャリア信号が入力していなければ、時間の更新はないので、気圧の測定は行う必要がなく、然してこの場合は、ステップS310に進む。ステップS310で、スイッチ部7からのキー入力を検出したときは、ステップS311に進み、キー入力信号に基づいて、都市選択、時刻修正等の処理を行って前記ステップS305に移行する。また、上記ステップS310で、キー入力がないときは、直ちにステップS301に戻る。

【0042】続いて、上記天気予報処理について図4のフローチャートを用いて説明する。同図において、CPU1は、まず、ステップS401で、RAM6のレジスタN(0)～N(23)から過去24時間の測定気圧を読み出し、平均気圧を算出し、その算出した平均気圧をレジスタQに格納する。次に、ステップS402に進み、RAM6のレジスタPから、図3のステップS302で測定した気圧データを読み出し、上記算出した平均気圧との差「P-Q」を演算し、得られた結果をレジスタEに格納する。続いて、ステップS403に進み、レジスタEに得られている気圧差データEが3mb（ミリバール）より大きいかなど判別する。そして、Eの値の方が大きければステップS404に進みレジスタXに「晴」を表す値「0」を格納した後、ステップS405に進み、上記レジスタPから読み出した測定気圧データを、時刻計数回路4から入力する現在時刻データに対応するRAM7のレジスタN(i)(i=0, 1, 2, …, 23)に格納して処理を終わる。

【0043】上記ステップS403で、気圧差データEが3mbより大きくないときは、ステップS406に進んで、 $3\text{mb} \geq E \geq 0\text{mb}$ の範囲にあるかなど判別し、この範囲内であれば、ステップS407に進んでレジスタXに「晴曇」を表す値「1」を格納した後、前記ステップS405に移行する。

【0044】また、上記ステップS406で、気圧差データEが、 $3\text{mb} \geq E \geq 0\text{mb}$ の範囲にないときは、ステップS408に進み、 $0\text{mb} > E \geq -3\text{mb}$ の範囲であるかなど判別し、この範囲内であればステップS409で、レジスタXに「雨曇」を表す値「2」を格納した後、前記ステップS405に移行する。

【0045】また、上記ステップS408で、気圧差データEが、 $0\text{mb} > E \geq -3\text{mb}$ の範囲にない、すなわち、 $E < -3\text{mb}$ となっているときは、この場合はステップS410に進み、レジスタXに「雨」を表す値

「3」を格納した後、前記ステップS405に移行する。

【0046】これにより、図6に示した現在気圧の測定値と過去24時間の測定気圧の平均値とにより4種類の予報表示図形の中から1つを決定する天気予報のアルゴリズムが実現される。

【0047】次に、前述した信頼度判別処理について、図5のフローチャートを用いて説明する。同図において、CPU1は、まず、ステップS501で、ROM8から現在時刻より8時間後の日付の降雨確率データを読み出す。次に、ステップS502で、前述の天気予報処理でレジスタXに得られている天気予報データの値が「0」(X=0)すなわち予報が「晴」となっているか否か判別し、「晴」となっていれば、ステップS503に進んで、上記ROM8から読み出した現在時刻より8時間後の日付の降雨確率データを参照する。

【0048】そして、その降雨確率データが「0~20%」を示していればステップS504に進んで、レジスタYに「3」を設定する。これにより、前述した降雨確率データ表示処理において、レジスタYからその値「3」が読み出され、これに基づいて、表示部12の信頼度表示部25の「大」表示体が点灯表示される。このように、天気予測が晴であって且つ降雨確率データが示す降雨確率が0~20%であれば、予報の信頼度は大きいと表示される。

【0049】また、上記ステップS503において、降雨確率データが「20~40%」を示していればステップS505に進んで、レジスタYに「2」を設定する。これにより、降雨確率データ表示処理において、レジスタYからその値「2」が読み出され、これに基づいて、表示部12の信頼度表示部25の「中」表示体が点灯表示される。このように、天気予測が晴であって且つ降雨確率が20~40%であれば、予報の信頼度は中位であると表示される。

【0050】また、上記ステップS503において、降雨確率データが「40~60%」を示していればステップS506に進み、この場合もレジスタYに「2」を設定する。これにより、この場合も、降雨確率データ表示処理において、レジスタYからその値「2」が読み出されることにより、表示部12の信頼度表示部25の「中」表示体が点灯表示される。このように、天気予測が晴であって降雨確率が40~60%であるときも、予報の信頼度は中位であると表示される。

【0051】そして、上記ステップS503において、降雨確率データが「60~100%」を示していればステップS507に進んで、レジスタYに「1」を設定する。これにより、降雨確率データ表示処理においては、レジスタYからその値「1」が読み出されることによって、表示部12の信頼度表示部25の「小」表示体が点灯表示される。このように、天気予測が晴であるのに、

降雨確率が60~100%であれば、予報の信頼度は小さいと表示される。

【0052】ところで、上記ステップS502において、天気予報が「晴」(X=0)でなければ、ステップS508に進み、今度は天気予報が「晴曇」(X=1)となっているか否かを判別する。そして、「晴曇」となっていれば、ステップS509に進んで、降雨確率データを参照する。

【0053】そして、降雨確率データが「0~20%」であれば、ステップS510に進んでレジスタYに「2」を、降雨確率データが「20~40%」であれば、ステップS511に進んでレジスタYに「3」を、降雨確率データが「40~60%」であれば、ステップS512に進んでこの場合もレジスタYに「2」を、そして、降雨確率データが「60~90%」であれば、ステップS513に進んでレジスタYに「1」を格納する。これにより、天気予測が晴曇である時に、降雨確率が20~40%である場合は予報の信頼度は大であると表示され、降雨確率が0~20%又は40~60%である場合は予報の信頼度は中位であると表示され、降雨確率が60~100%である場合は予報の信頼度は小さいと表示される。

【0054】また、上記ステップS508で、天気予報が「晴曇」(X=1)でないときは、特に図示しない他のステップに進み、天気予報が「雨曇」であるか否かを判別し、「雨曇」であれば降雨確率データを参照する。そして、降雨確率データが「0~20%」であれば、レジスタYに「1」を、降雨確率データが「20~40%」であれば、レジスタYに「2」を、降雨確率データが「40~60%」であれば、レジスタYに「3」を、そして、降雨確率データが「60~90%」であれば、この場合もレジスタYに「2」を格納する。これにより、天気予測が雨曇である時に、降雨確率が40~60%である場合は予報の信頼度は大であると表示され、降雨確率が20~40%又は60~100%である場合は予報の信頼度は中位であると表示され、降雨確率が0~20%である場合は予報の信頼度は小さいと表示される。

【0055】また、上記天気予報が「雨曇」でなければ、残る天気予報は「雨」であり、さらに他のステップに進んで、「雨」の天気予報において、降雨確率データを参照する。そして、降雨確率データが「0~20%」であれば、レジスタYに「1」を、降雨確率データが「20~40%」であれば、レジスタYに「2」を、降雨確率データが「40~60%」であれば、この場合もレジスタYに「2」を、そして、降雨確率データが「60~90%」であれば、レジスタYに「3」を格納する。これにより、天気予測が雨である時に、降雨確率が60~100%である場合は予報の信頼度は大であると表示され、降雨確率が20~40%又は40~60%で

ある場合は予報の信頼度は中位であると表示され、降雨確率が0~20%である場合は予報の信頼度は小さいと表示される。

【0056】上述のよにして、図7で説明した信頼度決定のアルゴリズムが実現される。上記実施例においては、降雨確率表示部27の表示を4段階に表示しているが、これに限ることなく、例えば降雨確率10%毎に表示してもよく任意の確率段階に区分けして表示してよい。また、信頼度表示は「大」、「中」、「小」に限ることなく、丸、三角、バツ印等の表示体を用いるようにしてもよい。

【0057】

【発明の効果】本発明によれば、気圧測定による天気予報データと、過去の統計による天気確率（降雨確率）データとを、その違いの程度を自動的に判別して、表示される天気予報データの信頼度を決定し、その信頼度も合わせて表示すると共に、当日を含む連続する所定日数の日の過去の天気確率データを読み出して同時に表示するようにしたので、天気予報と降雨確率の表示が異なっている場合でも、信頼度の表示によって使用者は表示された天気予報の傾向を独自に判断して予報を活用することができる。また、天気予報と降雨確率の表示が異なっても、信頼度の表示によって天気予報表示と降雨確率表示との相関がよく理解でき、したがって天気予報の傾向が分かるので判断に迷うということもなくなる。また、翌日の天気確率データとも比べられるので、より正確な判断が行なえる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例に係わる天気予報装置の内部構成のブロック図である。

【図2】(a)は上記ブロックRAMの内部構成図、(b)*

*は上記ブロック図の表示部の外観図である。

【図3】ゼネラルフローチャートである。

【図4】ゼネラルフローチャートの天気予報処理の詳細を示すフローチャートである。

【図5】ゼネラルフローチャートの信頼度判別処理の詳細を示すフローチャートである。

【図6】本実施例における測定気圧と平均気圧との差から天気予報の表示図形を決定するアルゴリズムを説明する図である。

【図7】本実施例における天気予報と降雨確率との違いに応じて天気予報の信頼度を決定するアルゴリズムを説明する図である。





【図8】表示部12の表示の一例を示す図である。

【符号の説明】

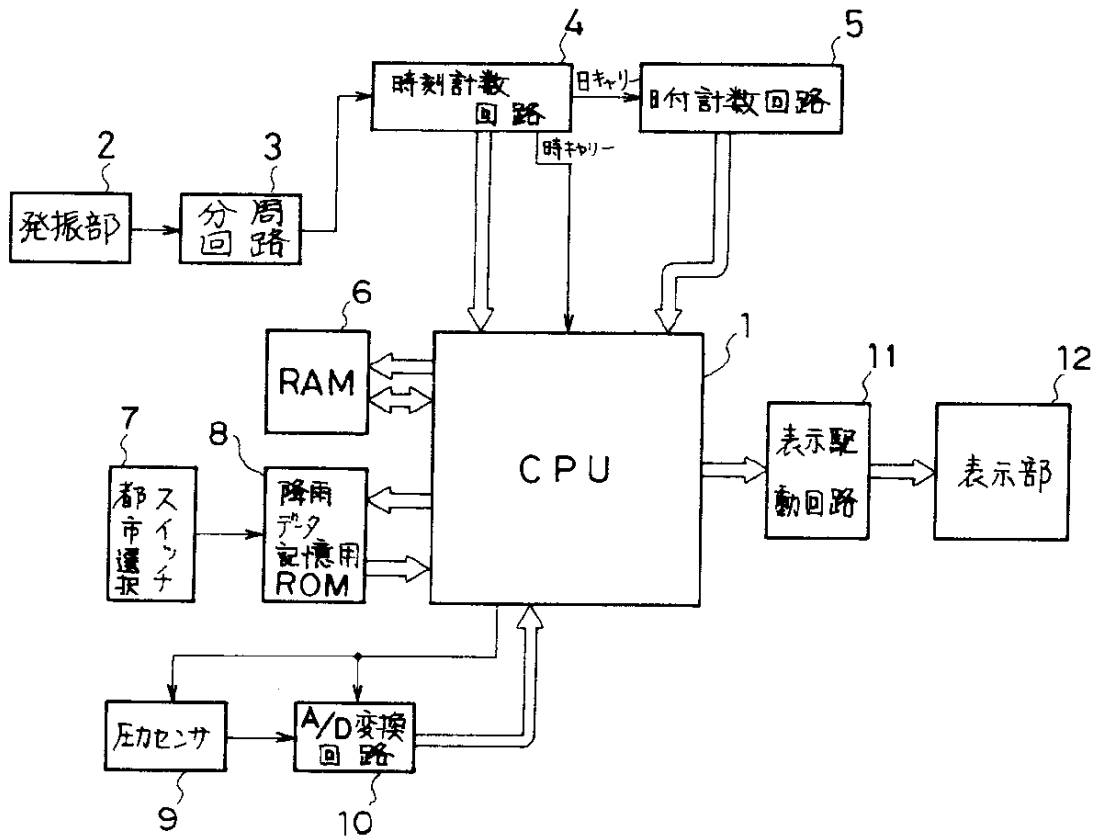
- 1 CPU
- 2 発振器
- 3 分周器
- 4 時刻計数回路
- 5 日付回数回路
- 6 RAM
- 7 都市選択スイッチ
- 8 降雨データ記憶用ROM
- 9 圧力センサ
- 10 A/D変換器
- 11 表示駆動回路
- 12 表示部
- 21 天気予報表示部
- 24 現在時刻表示部
- 25 信頼度表示部
- 27 降雨確率表示部
- 29 日付表示部

【図6】

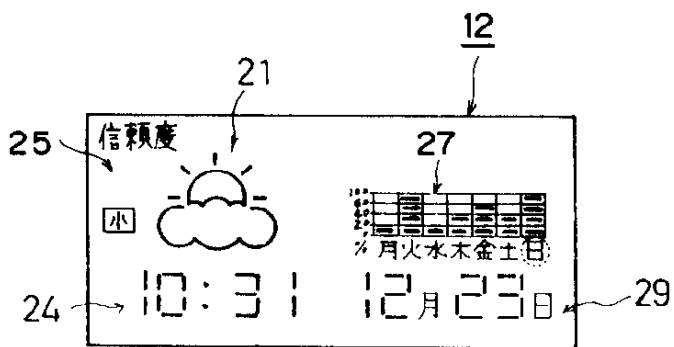
65

	測定気圧Pと24時間の平均気圧との差E E = P - Q	X	予 報	略 称	図 形
61	E > 3mb	0	晴のより天気になるでしょう	晴	
62	3 ≥ E ≥ 0	1	天気はよくなっていくでしょう	晴曇	
63	0 > E ≥ -3	2	天気はぐずついてくるでしょう	雨曇	
64	-3 > E	3	雨又は雪の悪い天気になるでしょう	雨	

【図1】



【図8】

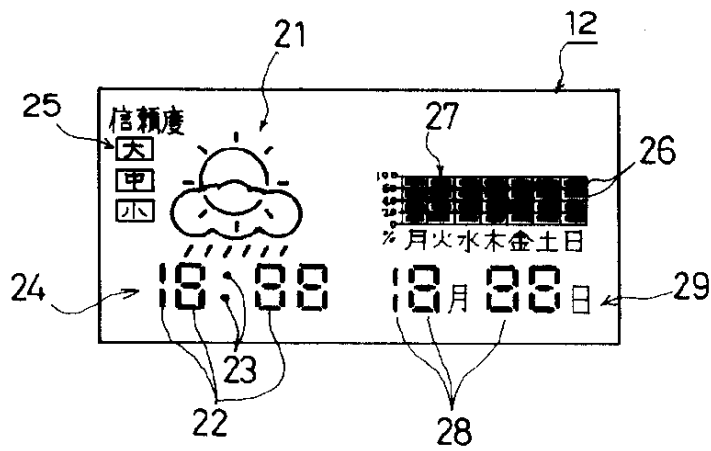


【図2】

6
↓

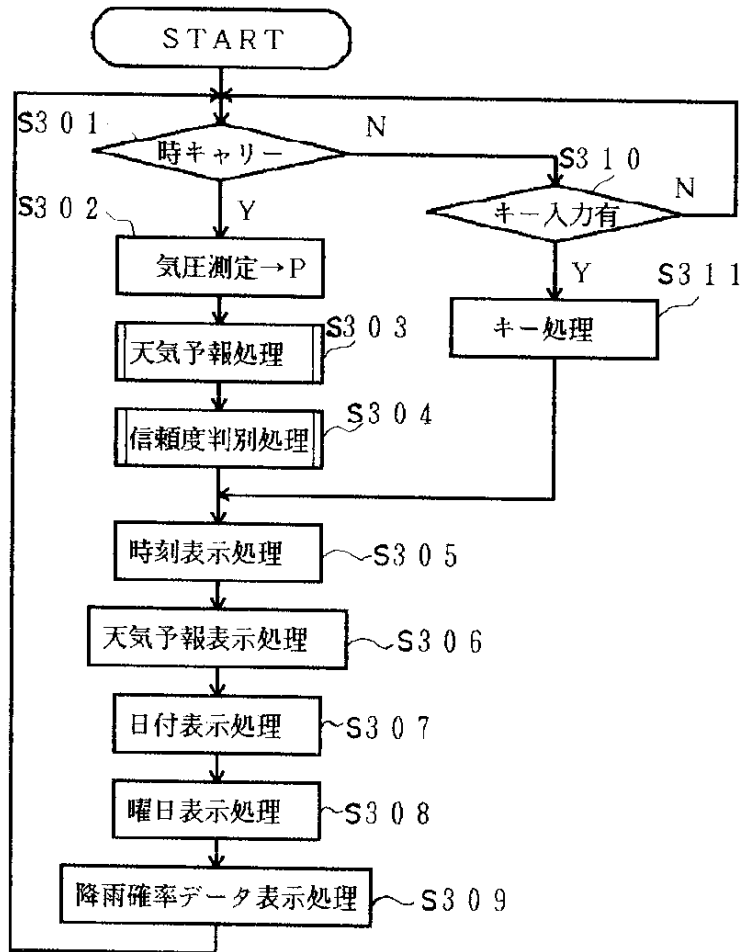
P	Q
E	X
Y	

(a)

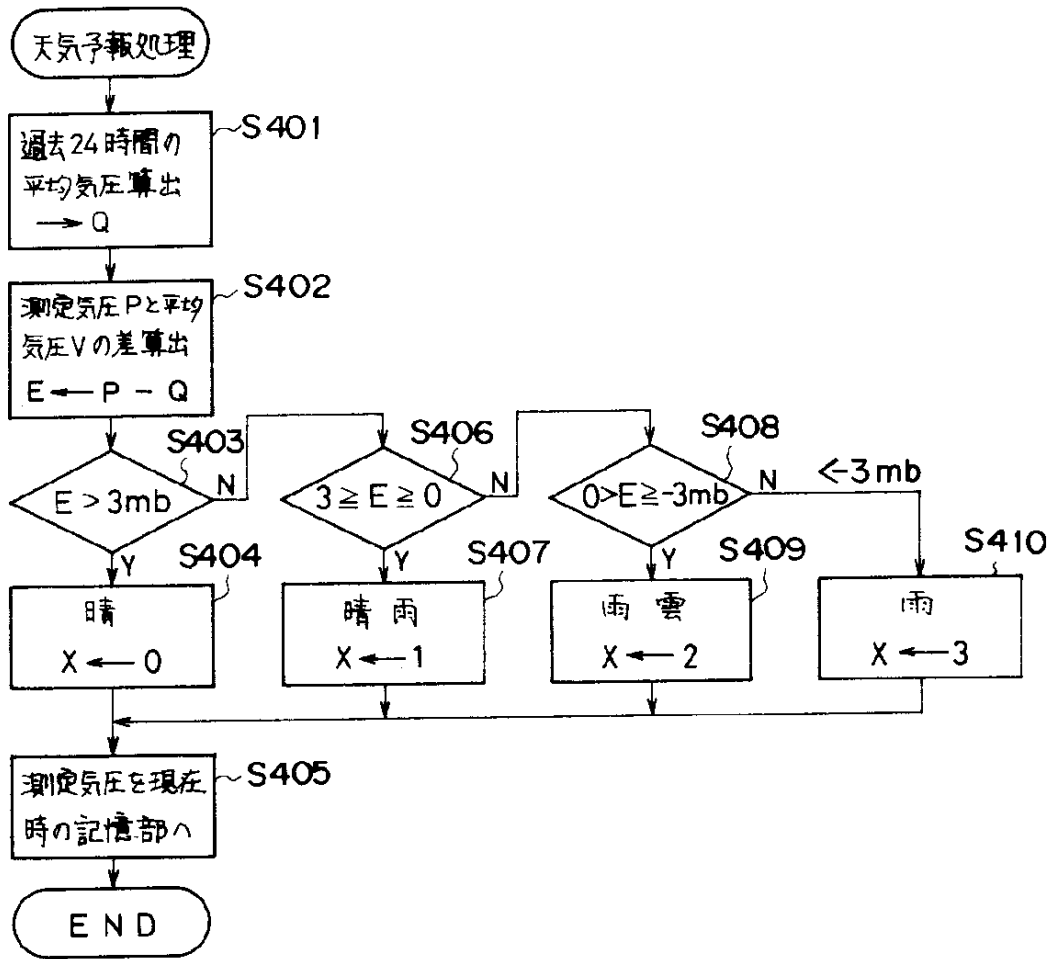


(b)

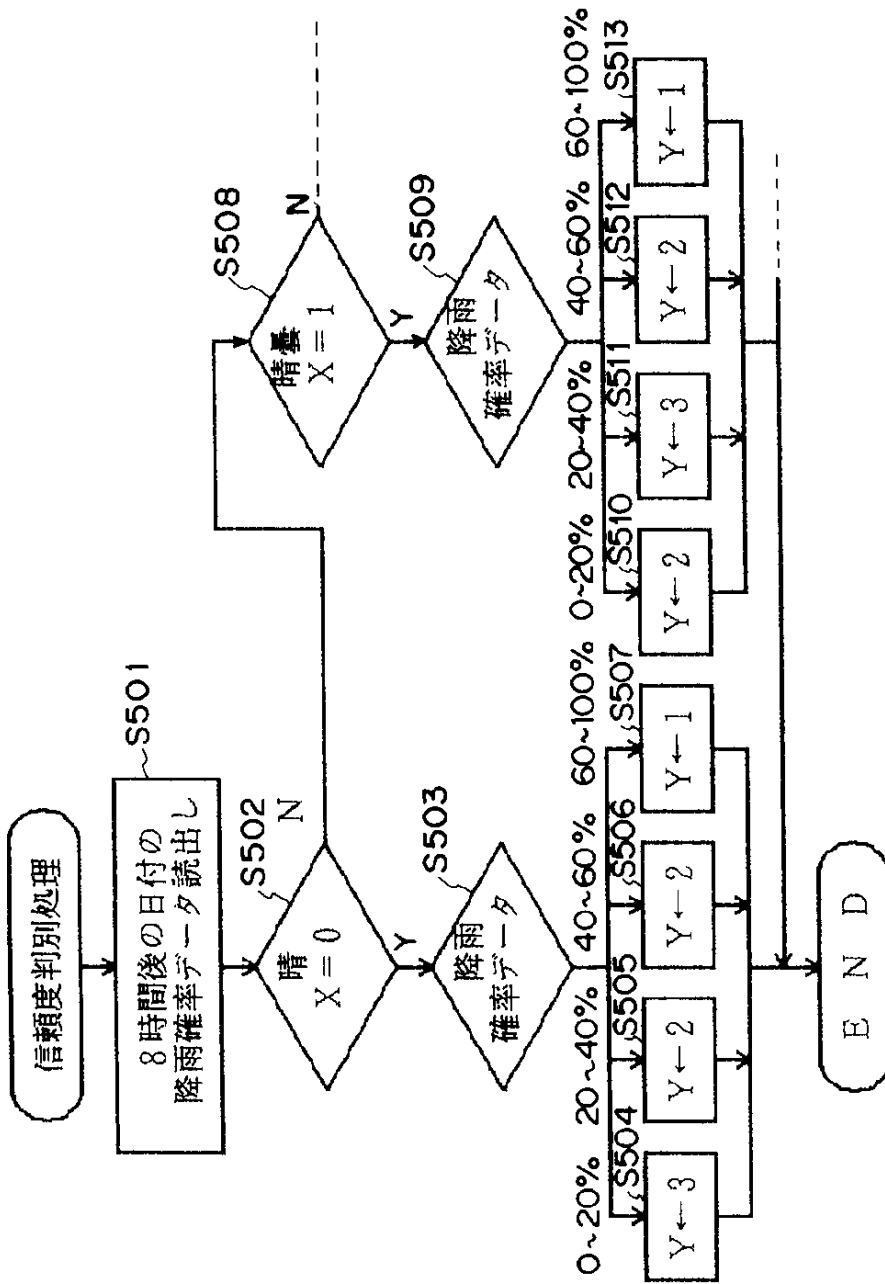
【図3】



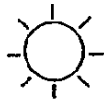



【図4】



【図5】



【図7】

	71	72	73
	天気予測	降雨確率	信頼度
74	晴 	0~20%	大(Y=3)
		20~40%	中(Y=2)
		40~60%	中(Y=2)
		60~100%	小(Y=1)
75	晴曇 	0~20%	中
		20~40%	大
		40~60%	中
		60~100%	小
76	雨曇 	0~20%	小
		20~40%	中
		40~60%	大
		60~100%	中
77	雨 	0~20%	小
		20~40%	中
		40~60%	中
		60~100%	大

フロントページの続き

(58)調査した分野(Int.Cl.⁷, DB名)

G01W 1/00 - 1/18

G04G 1/00

JICSTファイル(JOIS)